

両国さかさかさ (天水収穫装置) RYOGOKU Skywater Harvesting System

2010年6月28日

寄贈 ライオン株式会社

企画 雨の恵みプロジェクト (NPO 法人雨水市民の会・ライオン株式会社)

設計 有限会社 風大地プロダクツ

間伐材施工 有限会社 ナベ企画

協力 雨水利用事業者の会

天からの恵みを集めて活かす

「両国さかさかさ」

天水収穫装置

雨を「よける」のではなく、「集めよう」。

都会ではとかくやかいかいもの扱いされがちな雨。しかし、雨なしには草花も育ちません。雨はありとあらゆる生命の源です。大地を潤し、緑を育み、地下水となります。豊かな地下水は湧水となり、川に豊かな流れをもたらします。コンクリートやアスファルトが目立つ東京のまちも、実は空と大地の間を循環する雨によって支えられています。

雨は、天水。天からの恵みの水。この装置は、天水をもっと大切に、もっと有効に活かすシンボルとして、大地から空に向けて広がる「逆さ傘」をコンセプトに作られました。下部は、この逆三角屋根に降った雨を貯める容量約600ℓのタンクになっています。貯めた雨水は、付近の花壇への水やりや打ち水などに活用します。「歩道の緑地」という都市の公共空間で、天からの恵みを集水・貯留・活用し、大地に戻す。市民と企業と行政との協働による、天水を活かしたまちづくりへの実践です。

2010年6月 墨田区・雨の恵みプロジェクト

RYOGOKU
Skywater Harvesting
System

天水の収穫と活用

空から降る雨は、命の源。くらしの中で、街道の中で、天からの恵みである雨を有効に活用することは、これからはますます深刻化していく。これからの都市の環境問題、洪水・濁水や大地震などの自然災害への備えとして、私たちひとり一人が取り組むことのできる解決策のひとつです。墨田区から、全国そして世界へと広がります。

雨の恵みプロジェクト

ライオン株式会社とNPO法人雨水市民の会は、2008年より協働で「雨の恵みプロジェクト」を推進しています。まちのなかで雨水を貯留・浸透及び利用する意識を醸成し、社会への普及を目指して活動しています。

両国駅花いっぱい運動

ライオン社員のボランティアグループ「花ボランティア」は、両国駅周辺の環境美化を目的に、2005年から両国駅周辺の花壇やフワーボットに草花を植え育てる「花いっぱい運動」をしています。タンクに集めた雨水は、これらの草花への水やりにも活用します。

間伐材の活用

天水もれももって活用。雨の管理には間伐とその有効利用が欠かせません。この装置には、山出し間伐材を原料として、木屑を乾燥させた後、専用の材料を成形し、木屑を再利用して、環境にもやさしい装置を製作しています。

あま みず ちょ りゅう リットル
雨水貯留タンク (600L)

600-liter Rainwater Tank

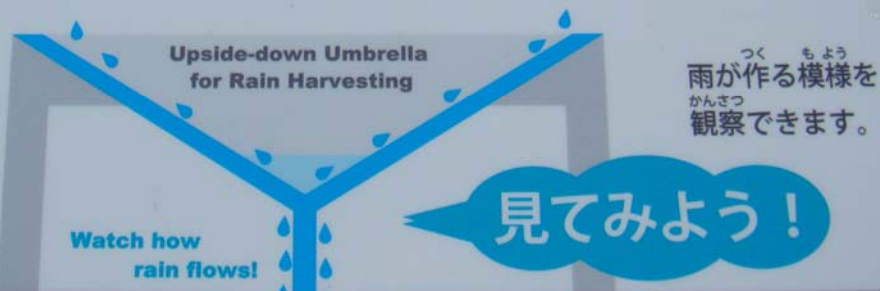
この台の内部は、容量約 600ℓのタンクとなっています。樋から伝わる雨がこの中に貯まります。貯めた雨水は花壇への水やり等に使用します。台の中にはホースも収納されています。



さか かせ み あま どい
逆さ傘と魅せる雨樋

Upside-down Umbrella & Inside-out Downspout

雨音も楽しめるテント生地^{きじ}の屋根は、雨を集めるために逆三角形^{ぎゃくさんかくけい}をしています。屋根に降った雨は中央に集まり、樋の外側を流れて、下のタンクに入ります。



じゅん こく さん かん ぼつ ざい そう ち
純国産間伐材の装置

Domestic Thinned Wood Structure

装置の本体と床部のブロックタイルは、国産の間伐材の有効活用で作られています。カラマツ、スギ、ヒノキの3種類の木が使われています。間伐材の活用は、森を守り、環境の保全につながります。

